PanAmerican Seed® GROWERFACTS

花壇用ストック ビンテージ・シリーズ

10 色そろったカラフルなシリーズ
生育、開花ともに矮性種の中では最も早いストック

■ ビンテージは、明るい彩りと花数が多い品種で、株の生育の早いシリーズで、色幅も豊富です
■ シングル、ダブルは未鑑別ですが、ダブル花は 55%以上。花色には数種のユニークな昼間色系を有します
■ まとまりがよく、分枝のよさが草姿バランスのよさに反映されています。丈は花壇定植で 38-50cm
■ アウトドアパフォーマンスについてはとくにすぐれた品種です
■ 性質としては、低温環境を好むので、秋から冬また春先の花壇素材としてとても適した品種です
■ 開花に際しての低温処理はとくには不要です

本品種の学名: *Matthiola incana*
種子粒数: 550-700 粒/グラム

プラグ生産ステージ

プラグトレイのサイズ
ビンテージ・シリーズのプラグ苗を作る場合は 406 穴ないし、それよりも大きなサイズのトレイを用います

培　地
水はけがよく、衛生的なピート主体の培地を用いましょう

播　種
粗めのバーミキュライト等で、種子へ保水維持のためにやや軽めに覆土します。発芽は、温度条件を維持できるのであれば、チャンバーを用いなくともベンチの上でも可能です。発芽には 3-4 日かかります。ストックの苗生産では、生産を行う場所を清潔に管理し、病害虫が入り込みにくい環境を常に維持することが非常に重要なポイントになります

温　度
プラグ生産の段階では、地温のヒートアップは不要。
発芽: 20-22℃
温度が 24℃以上にならないように注意しましょう。この温度を超えると、苗の軟化や徒長、さらには立ち枯れも懸念されます
子葉展開後: 15℃(夜間)、18-20℃(昼間)
本葉展開後: 15℃(夜間)、18℃(昼間)
プラグ生育段階: 13℃(夜間)、15℃(昼間)
上記、各段階の温度が維持されれば、健康で質の高い苗に仕上ります

光条件(電照等)
電照等による補光は不要です

湿　度
子葉が現れるまでは相対湿度を 95%で維持します

土壌の水分
プラグの培地は乾かさないようにします。ただし、過湿に傾きすぎると根にストレス障害が出ることがあります。障害が深刻な場合は苗が回復しないので、注意が必要です

肥　料
本葉が展開し始めたら、週 2 回の頻度で 14-0-14(あるいは 13-2-13)と 20-10-20 を交互に、50ppm(N)で与えます。2 週目からプラグステージ終了時までは、濃度を 100ppm(N)に上げます

ステージ 2: 土壌 pH を 5.8-6.2、EC 値*を 0.5-0.75 mmhos で維持
ステージ 3-4: 土壌 pH を 5.8-6.2、EC 値*を 1.0 mmhos で維持

矮化処理剤(PGR)
同ステージでは矮化剤は不要です。

ポット上げから出荷まで

コンテナサイズ
苗はカットパック、ないし 9-10.5cm ポットへ鉢上げします

栽培時の環境等
ビンテージ・シリーズの品質を引き出すためには、移植後の最初の 1-2 週、無蓋ハウスのように戸外に意図的に放置します。ただし降雨等の悪条件が予想される場合は、施設栽培を行い、ハウス内の温度を下げることによってその条件を満たすようにします

培　地
培地は乾かさないようにしましょう。同時に極端な過湿も避けます。過湿になると、根腐れ病やベト病、また枯葉病などが発症しやすくなります。一方で培地が乾きすぎだと、根部にストレスが加わり個体が枯れたり、他の感染病と併発して、下葉にクロロシスが現れる可能性があります。下葉に現れるクロロシスが、養分欠乏によるものか、乾燥ストレスによるものか、あるいはベト病由来なのかを識別するには、これはあるていど経験による洞察を要します。いずれにしても極端な過湿や乾燥は禁物です

生育適温
施設栽培: 夜間温度を 10-13℃、昼間温度を 15-18℃で設計します。ビンテージ・シリーズの出荷前のステージでは、昼夜を問わず温度が 20℃を超えないようにします
露地栽培: 露地生産の場合、最良の条件は最初の数週間の温度が、夜間温度が 10℃を下回り、昼間温度が 15-21℃の範囲内です

光条件(電照等)
電照等による補光は不要です。

肥　料
鉢上げ後 1 週たってから、150ppm(N)で比較的多めの頻度で施肥します。鉢上げ時から出荷までの間、土壌 pH を 5.8-6.2、EC 値*を 1.5 に維持します。また塩類が蓄積しないように、適宜、移植苗をかん水で水洗します
NOTE: ストックは、頻繁に液肥で追っていくことで、開花が近づいてからの下葉のクロロシス発生が抑えやすくなるのでしょう。ストックの場合は、この方が週 1 回の施肥を行うやり方よりも管理しやすいでしょう。開花が近づいてからは肥料切れを起こさせないことが重要です

矮化処理剤(PGR)
矮化剤は不要です

栽培のスケジュール
播種からポット上げ(406 穴): 4-5 週
ポット上げから開花: 7-8 週
播種から開花: 11-12 週

予想される一般的な障害
害虫: ファンガスナッツ、ショーフライ(以上、プラグ生産ステージ)、スリップス、ハダニ、ヨト蛾(以上、鉢上げ後)など
病気: ベト病、根腐れ病、枯葉病などが発現しやすい病気です。全生産周期を通じて、ベト病については徹底的に殺菌剤の散布を行います。殺菌剤の使用については、注意書きに合った適切な使用方法を行い、周囲の環境等にも配慮しましょう。ステージ 4 においては、発生する可能性があるすべての病原菌を滅殺させる観点から、広域スペクトラムを有した殺菌剤を土壌へかん注しましょう。葉に水滴を長時間残すといった、病気が発生しやすい環境を作らないようにして、またハウス内の換気をよくすることも大切です

2005 年 9 月　改定

*: EC 値(電気伝導度)の数値は、北アメリカのピート主体の培地が算出要素になっているので、日本国内では適合し得ない場合もあります。

PanAmerican Seed

™および®は、Ball Horticultural Company のアメリカ合衆国、またその他国における登録商標です。

PanAmerican Seed Co.
622 Town Road, West Chicago, Illinois, USA 60185-2698
630 231-1400 Fax: 630 231-3609 www.panamseed.com

©2003 Ball Horticultural Company Printed in USA PAS03012
Originally issued as PAS003012 in USA, and under permission translated/revised into Japanese in 2005. Printed in Japan